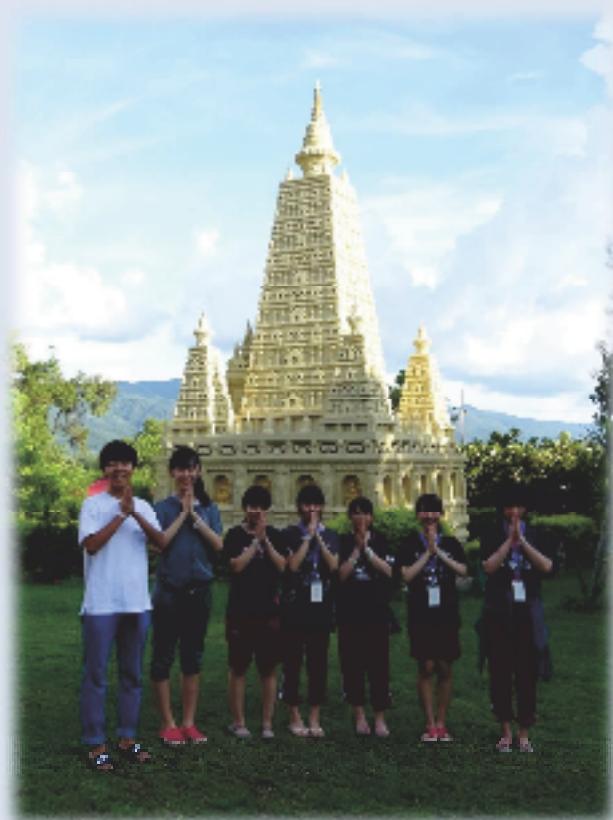


2017年

SGH タイ研修報告書

2017・9・20～2017・9・25



○YMCA パヤオセンター



寄付物資が置いてある場所



運動場



キノコ栽培



ウェルカムナイト





子供たちとの交流会

○タイ北部バンタム村ホームステイ



持続可能な農業について



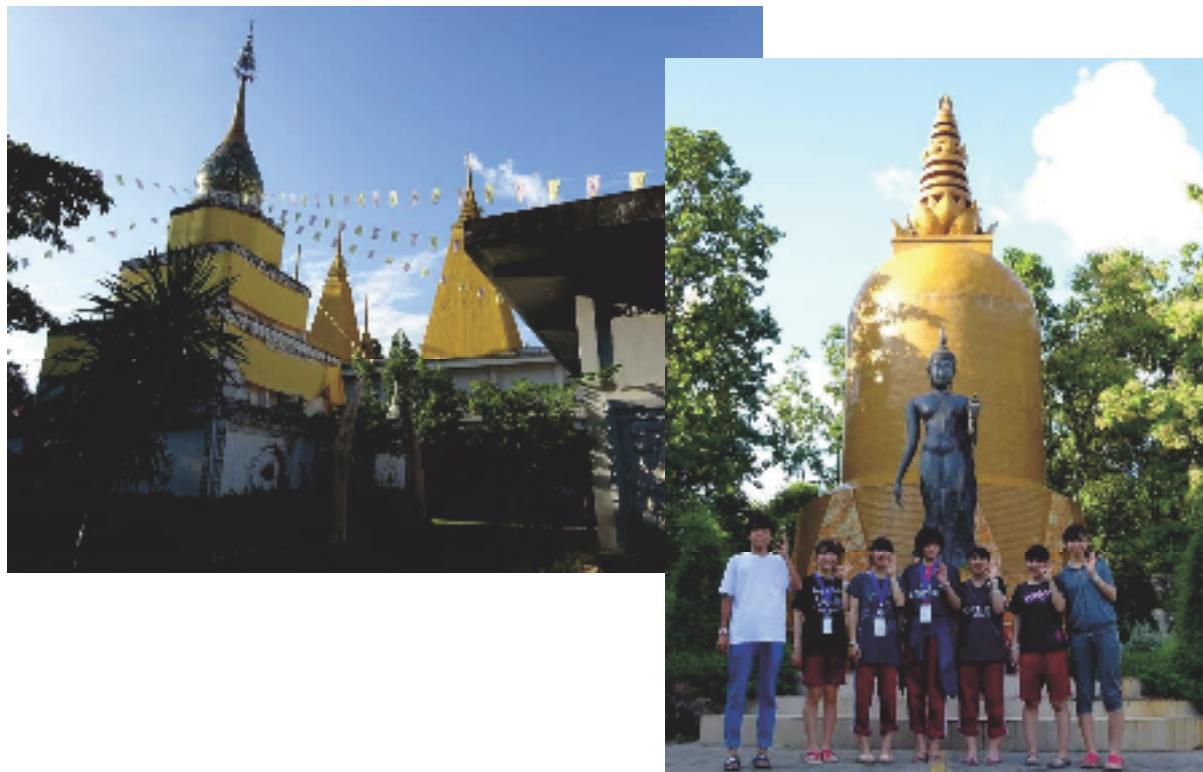
○タイ警察方からの麻薬についてのお話



○現地高校と学校交流会



○寺院の見学



○ホームステイの様子



○村の人たちのお話(天然ゴム園にて)



○文化交流 (パヤオセンターにて)



○Farewell party



○研修の総括



【2017年度 SGH タイ研修日程表】

DAYS	DATE	REMARKS
1	9/20 Wed.	09:00 - 新千歳空港集合国際線ターミナル3階出発口に集合 10:30 - 新千歳空港出発(TG671)→Suvarnabrumi 国際空港へ 15:30 - Suvarnabrumi 国際空港着 19:05 - Suvarnabrumi 国際空港発(TG2136)→Chiang Rai 国際空港へ 20:35 - Chiang Rai 国際空港到着 →パヤオセンターへ 【パヤオセンター泊】
2	9/21 Thu.	08:00 - Breakfast 09:30 - Phayao center presentation 11:00 - Field trip around at the center. Shopping Tribal Craft shop. 12:00 - Lunch at Phayao Center 13:00 - Learning human trafficking and drug addiction (narcotic drug) and discussion with the Multi- Disciplinary Net Working Group to combating human trafficking at the local level. (the representative from teacher and policeman) 15:00 - discussion with returnees 18:30 - Opening Dinner Khan Toke 20:30 - Welcome ceremony Preparing Home Stay 【パヤオセンター泊】
3	9/22 Fri.	08:00 - Breakfast at Phayao center 09:30 - Learning sustainable agriculture at Baan Tham community 11:00 - Back to Phayao center. 12:00 - Lunch AT Phayao center. 13:00 - cultural exchange with High school students and discussion with teacher on the topic of " Thailand's education system" at Thampin Wittayakom School,Dokkhamtai, Phayao. 15:30 - Preparing Home Stay at lowland village (Ban Tham village) - Sightseeing view at Phra Tad Chom Sil Temple. 16:30 - Proceed to stay with Host Family at village learning the way of life. 18:00 - Dinner with host family 19:00 - Discussion and exchange with families, learning the way of rural life with lowland Northern people. 【ホームステイ】
4	9/23 Sat	07:00 - Breakfast with host family 08:30 - Learning the culture of lowland people and the way of agriculture life. 10:00 - Back Phayao Center 10:30 - Free time / Take a rest Recreation game with children at Phayao center. 12:00 - Lunch with children at center 13:30 - Learning Thai Cultural event Free time/ prepare Japanese Culture to present. 15:00 - Learning Japanese culture. 18:00 - Farewell Dinner with children - Farewell Party and thanks giving ceremony. 【パヤオセンター泊】
5	9/24 Sun.	07:00 - Breakfast with children Evaluate and reflection study trip with staffs 10:30 - Cleaning and Packing luggage 12:00 - Lunch with children at center 13:00 - Leave for Chiang Rai International Airport. 15:30 - Chiang Rai International Airport 到着 17:00 - Chiang Rai International Airport 発 (TG2135) 18:20 - Suvarnabrumi 国際空港着 23:45 - Suvarnabrumi 国際空港発→新千歳空港へ向け出発 (TG670) 【機内泊】
6	9/25 Mon	8:30 - 新千歳空港着→解散

I. 村での生活

1. ホストファミリーについて

家庭①

- ホストファザー
 - 木の樹液から生ゴムを作る
 - 自動車修理の仕事
- ホストマザー
 - 家でご飯を作る
 - パヤオセンターでクラフト作り・刺繡
- ホストブラザー
 - サッカーの習い事をしている

家庭②

- ホストファザー
 - 木の樹液から生ゴムを作る
 - 田んぼをしている
- ホストマザー
 - 家でご飯を作る
 - パヤオセンターでクラフト作り・刺繡

家庭③

- ホストファザー
 - 農家
- ホストマザー
 - 家でご飯を作る
 - パヤオセンターでクラフト作り・刺繡

2. 普段の生活

家庭①

家庭のお風呂場では、浴槽はなく、シャワーのみだった。洗面台がないところもあった。また、トイレは自分で流す式のものであった。台所も日本とは全く違って、桶からすぐって手を洗っていて水が節約されていた。家を外出する際に施錠しない家もあり、日本との差を感じた。また、近所に親戚が住んでいる家庭が多く、よく行き来していた。日本はそういう家庭が少ないので驚いた。防犯面でも、交流面でも良い環境だと感じた。

家庭②

私たちがお邪魔した時、お母さんとお父さんが笑顔で迎えてくれた。自家栽培しているココナッツで作ったゼリーとバナナチップスとフルーツをご馳走していただいた。その後に家の周りにあるものを案内していただいた。夕食はお母さんの手料理をご馳走になった。どれもおいしかった。入浴を済ませた後、お母さんも毎週一回参加している近くのエアロビ教室に行き近所のお母さん達と一緒に踊った。翌朝、お父さんに朝市につれてってもらった。市場には日本では売っていない蛙や蛇、虫なども売っていた。普段食べるものの大体はここで買っていると聞いた。日本との環境の違いは多くあったが生活していく不便なことは何もなかった。

感想

私たちは、9月21日から9月22日にかけてタイ北部にあるバンタムにてホームステイを体験した。農村の暮らしを知ることができた。私たちのホストファザーは田んぼとゴム園をやっているが、借金があり、お金はないが幸せに生活をしているといっていた。村に住んでいて不便に感じていることは、ほとんどなく、充実した生活を送っていた。大きな街に出ることも家電製品や、車の修理道具など市場で買えないものを買いに行く以外ないと言っていた。市場に行くだけで日常生活に不便が生じないのは、とてもすごいと感じた。日本に言ってみたいですか？と質問したところ、行ってみたいが、金銭面で行けないと言っていた。日本のアニメなども知っており、自分たちが考えていたよりも日本のことによく知っていた。また市場に売っていた蛙や虫、ホームステイ先などで頂いた唐辛子の効いた甘辛い料理などから日本との食文化の違いを感じた。タイは日本と同じ仏教を信仰しているくにだが、市場でオレンジ色の服の僧侶に願い事をしている人がいたり、毎週お寺に通う人がいることから日本よりも仏教と親密な生活をしていることがわかった。村の特有な文化として、タイのお正月である4月17日に土地の神様にお祈りをしている。バンタム村にだけある文化は少なくて北タイ地区の文化が多いと言っていた。植物などは違ったが北海道の田舎の風景によく似ていた。家庭でのご飯の手伝いや、エアロビ教室に参加したことなどを通して、タイの普段の生活や現地の人々の声を知ることができた。



II. 持続可能な農業

<YMCA パヤオセンターの支援によるポーピー家の農業の変化>

ポーピー一家は以前家畜の餌であるトウモロコシを栽培し、一年に一回のみの収入しか得られなかつた。家畜用のトウモロコシであったので、自分たちの食料にすることもできなかつた。そして、トウモロコシは農家が相場を決められないので、毎年収入が不安定であり、赤字になる場合もあつた。そのため、村の高利貸しへお金を借り、その借金や高い利息に苦しんでいた。

しかし YMCA パヤオセンターの支援を受け、さまざまな野菜や果物、木を栽培することに成功した。そうすると、それぞれの収穫の時期が異なるため、年間を通して収入を得ることができるようになつた。今では約 40 種類の作物を育てているといふ。

また、以前は農薬や化学肥料も使用していたが、今では無農薬で栽培している。有機農業で栽培することによって、高い質の野菜を生産できるようになり、自分たちで食べる分以外は市場で販売している。そのため毎日現金での収入がある（毎月野菜のみで 2 万バーツ）。その収入で以前あつた借金を全額返済することができた。そして、残った収入で農業機械や車、バイクなども買えるようになった。

<ポーピー家の現状>

ポーピー一家は同じ作物は同じ土地に植えないという輪作を行い、害虫を防いでいる。また、自作の苗を使うことで支出を抑えている。ピン村は一年中水が湧き出ているので、水道代はかからない。しかし、電気が通っていない地域なのでソーラーパネルで発電することで電気をまかなつている。

出稼ぎに出ている息子さんは池で天然の魚を取ることで多いときで 1 日 3000~4000 バーツの収入を得ている。



III. 人身売買について

私たちはパヤオセンターで人身売買について様々なことを学んだ。人身取引は国際連合の機関の一つ、国際移住機関(IOM)で定義づけられている。「人身取引」とは、搾取の目的で、暴力その他の形態の強制力による脅迫若しくはその行使、誘拐、詐欺、欺もう、権力の濫用若しくはせい弱な立場に乗ずること又は他の者を支配下に置く者の同意を得る目的で行われる金銭若しくは利益の授受の手段を用いて、人を獲得し、輸送し、引渡し、隠匿し、又は収受することをいう。搾取には、少なくとも、他の者を売春させて搾取することその他の形態の性的搾取、強制的な労働若しくは役務の提供、奴隸化若しくはこれに類する行為、隸属又は臓器の摘出を含める。」

人身売買のキーワードは3つある。1.行為 2.方法 3.目的 だ。1の行為というのは対象となる人を探し、騙し、匿い、売る、そして買うという行為だ。勧誘や監禁、隠ぺいも全て人身売買の加害者となる行為である。2の方法は騙すことや欺罔、誘惑することである。18歳未満はお金目当てで自らを売ったという場合でも人身売買の被害者として扱われるが、大人(18歳以上)の場合、自らの意思で売春行為を行っているならば人身売買の被害者とはみなされない。本人が騙されたと感じたり、軟禁されていたりする場合には被害者となる。3の目的は、性的欲求や売春、奴隸、臓器摘出などである。

人身売買は8つの形態があり、下記は形態と例、またはその説明である。

1 : 強制売春	管理者が強制する売春で強制主体が存在し、自由売春とは呼べないもの。
2 : ポルノコンテンツの制作、頒布	児童ポルノなど。撮影をし、それを youtube などの動画サイトに動画を載せたり、仲間(コミュニティ)に配るなど。
3 : 利益のために性を利用する、その他の形態	ダンスなど。
4 : 強制労働	家政婦など。
5 : 強制労働サービス	タイでは漁船の労働者にされたりする。北タイの人々が海のある南の方へ連れて行かれる場合もある。いい話があると言われ、ついて行き、事務所の水を飲んだらいつのまにか船の上で、言われるままに働くないと銃で殺されるという状況に置かれてしまう。
6 : 物乞い	バックに組織がついており、物乞いをしてもらったお金を組織が回収してしまい、全額本人に渡されない。最も悪質なのは、子供を誘拐し、暴力を振るい、わざと障害を持たせ、人々の同情心を煽るなどといった行為だ。実の母ではない人と一緒に居させ、観光客の多いバンコクに置いていき、夜に回収しにくるのである。(本当の物乞いである場合もあるので、

	事件が発覚してからでないとわからないのが問題である。)
7：臓器売買	中国が買い手として多く存在し、その理由として、中国は人口が多いため、そのぶん臓器の需要も高いのである。
8：1~7以外のもの	法の隙をついて人身売買にあたらないようにお金を搾取している場合。代理母出産など。

これらの原因となりうるもの

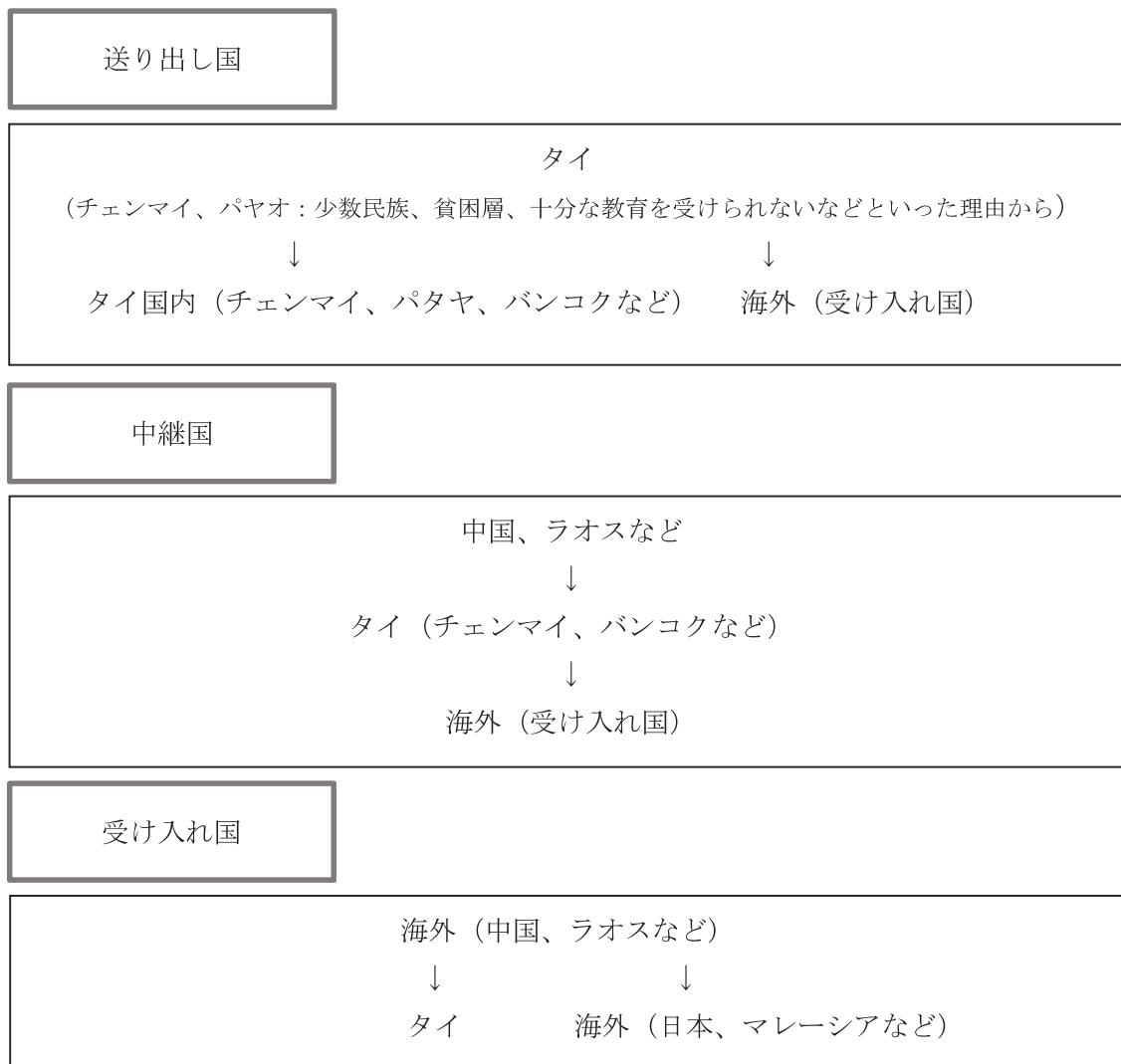
1. IT の情報
2. 欲
3. ブローカーやエージェント(仲介業者), 悪質な友達, 親族の存在
4. 教育の機会に恵まれない
5. 生活の向上を望む気持ち
6. 借金
7. 危険に巻き込まれるリスクが高い場所にいること
8. 貧困, つまり経済格差

原因となりうるものは多く、そしてどれも一言で解決できるようではなない。

パヤオ県の人である、ソーシャルワーカー(社会奉仕家)のポットさんは、タイ人と日本人はおかかれている状況がかなり異なっているとおっしゃっている。タイ人は農業に従事しており収入が安いため、お金を求めて人身売買の被害にあう可能性が高い。実家が農業を営んでいる場合が多いため、小学校や中学校を卒業した後そのまま働き、知識不足により騙されることが多いのも問題である。また、親の離婚により祖母の家で生活することで、お金がなく欲しいものが買えないために自ら売春行為をしてしまう場合や、親のDVを受け家出をし、生きていくために売春をするなどといった、強制ではなく自分の意思で人身売買をしているという理由も少なからず存在する。そのような自ら売春をしよう、と思い、行動に移すことができてしまうのはブローカーの存在があるからである。ブローカーは友人、先輩、レストランやカラオケの経営者などである。自ら売春を行いたい、と思っている人は、ブローカーは仕事を紹介してくれた恩人と認識しており、その考え方を変えなければならない。最近では、子供たちはブローカーを通じずソーシャルネットワークを利用し売春行為をしているため法や団体が入り込みにくくなっている。

移動経路

タイは送り出し国、中継国、受け入れ国すべてに関わっている。送り出し国は人を海外に売り、中継国は人を海外に売る途中、中継をする国で、受け入れ国は人を買い入れている国のことである。



人身売買についての○×クイズ

IV. リターニーさんのお話

私たちは、人身売買の被害にあった女性からたくさんの現実を学んだ。

Aさんは、両親の借金返済のため村の人から収入の多い日本で働くことを勧められた。

バンコク→マレーシア→シンガポール→日本という経路である。マレーシアで、タイのパスポートがとられ、新しいのをもらう。そして、名前も決められた。

日本について、一軒家に同じようなタイ人の女性が20人ぐらいいた。ここにきて初めて、状況を理解した。1日平均3~4人、毎日客をとっていた。しかし、これは生き延びるために必要なことであった。もし受け入れなければ、日本人から暴力を受ける。

何とかこの状況を変えたかったAさんは、毎週土・日に来る馴染みの客に自分のすべてを話し救ってもらいたいと思っていた。やくざの仲間だった時のことを考えると、そう簡単に自分を話すことができなかつた。Aさんは、勇気を振り絞り、男性に「やくざの仲間か」と聞いた。男性は「違う」と否定した。そして、自分のことを話すことを決めた。

まず、21年間過ごした地下のような場所から逃げるために、ある日男性はホテルで待っているとやくざに伝え、Aさんはホテルに向かった。そして、男性の車に乗ってアパートへ逃げた。そこから1年間全く外に出ないで、アパート内で暮らした。その時の、食事は男性が買ってきてくれた。

しかし、警察に見つかる。パスポートがなかったため署に連れていかれ、男性にも来てもらう。Aさんは、母親に手紙を出し、何か証明になるものを日本に送ってほしいと頼んだ。無事、母親のもとに手紙が届き証明となりそうな資料を送ってもらったが、あまり潰えなかつた。もう一度母親に頼んだ。そこでAさんの母親はYMCAパヤオセンターの存在を知る。YMCAから、在日タイ王国大使館へ連絡が行った。

YMCAの協力のもと、無事タイに帰国することができた。

帰国してからもYMCAは、支援してくれ、おかげで仕事もはじめられた。さらに、リハビリもできるようにしてくれた。

Aさんは、「日本ですべてなくしたが、日本人みんな嫌いとは思っていない。」「もし、そのような場合に遭遇したら無視しないで、自分のできることをしてくれれば、私が話したかいがある。」といつていた。

今の生活では、「お母さんの面倒を一番近くで見られることがうれしい。」「お父さんの最後も見られたので後悔していない。」と幸せなタイでの暮らしを取り戻しているのかなと感じることができた。

私たちもそうであったように、多くの日本人が人身売買に自国が加害者として関わっていると思わないだろう。人身売買はAさんも言っていたように、体験した人にしかわからないつらい思いがある。それを、少しでも“他人事”ではなく“自分事”として、いかに捉えることができるかが、この問題を知る第一歩になると学んだ。

V. 麻薬について

警察官の方には、麻薬犯罪の予防と制圧についてのお話をうかがうことができた。タイ北部パヤオ県ドッカムタイ郡では警察官が 138 名。そこから派出所におよそ 3 名ずつ派遣されている。ドッカムタイ郡では 1 ヶ月あたり 35 件程、麻薬関連の犯罪が起きている。また、バーンタムやバンピンは都市部の影響を受けて、若者の麻薬使用が多く発生しているそうだ。ここからは、麻薬犯罪の捜査、加えて、麻薬犯罪の予防について報告していく。

まず初めに、麻薬犯罪の捜査について、警察官のパニーソーさんにお話をうかがった。ドッカムタイ郡の村々に配置された派出所内では、村の住人が麻薬売買に関わっているかどうか、常に情報の共有がされている。また、村長とも情報のやりとりが活発に行われていて、村には麻薬に関するネットワークが張られていることがわかる。

麻薬の利用が発見された流れは、まず警察官から（未成年の場合は）親、行政に連絡が入り、身柄が拘束される。ここで驚いたのは、本人が望めば、リハビリセンターに入ることが出来る、というところである。リハビリセンターから出た後は、一年間、保護観察官の監視の元で生活をしていかなければならない。本人にリハビリセンターに入る意思がなかったとしても、刑事手続きを踏んだ後、リハビリセンターに送られる。しかし、リハビリセンターに入ったとしても、再犯率は約 50% になるそうだ。麻薬の依存性の高さを改めて実感した。また、タイの麻薬使用において、もっとも多いのは覚せい剤だそうだ。

次に、麻薬犯罪の予防について、ウィチャイさんにお話を伺った。

日常的な予防の代表としては、検問などが挙げられる。一定の場所で検問を行うのではなく、毎日違う場所で検問を行うことによって、捜査範囲のムラを無くしているそうだ。また、先ほども述べたように、村長や村の代表者に定期的に話を伺うことによって、迅速に対応できるようなネットワークも広げている。そして、麻薬局を中心に、「麻薬撲滅強化週間」を設定し、麻薬問題に関するセミナーを開いたり、実際に現場に踏み込んで摘発するということを行われている。

また、ドッカムタイ郡の中では、18 歳から 20 歳の青少年から覚せい剤 10 万錠を押収した事件も起こっている。麻薬や覚せい剤への関わりや、被害をなくすために、麻薬や覚せい剤に対して正しい知識を伝えることも積極的に行っている。そのため、アメリカが行っている教育プログラム「DARE」を取り入れている。「DARE」とは、「Drug Abuse Resistance Education」の略称で、ドラッグやたばこ、アルコールの乱用をさせないための教育プログラムである。警察官を中心として、生徒たちに薬物の危険性や、誘われた時の断り方など、薬物に関する授業を一年間通して行っている。警察官だけではなく、医者や看護師も講師として学校で授業している。また、誰でも授業を行うことが出来るわけではなく、授業を行うのにも資格が必要になるそうだ。「DARE」の授業が修了すると、生徒たちは修了式、並びに修了証書を受け取ることになる。この修了証書には番号が割り振られていて、データベースに保存される。ウィチャイさんいわく、「DARE」の授業を修了した生徒が麻薬問題に巻き込まれることはほとんどないそうだ。

また、「子供を守るプロジェクト」というものもある。これには、保健局や町長、警察署長

などが参加している。加えて「子供を守るプロジェクト」の対象となる青少年も参加している。若者の麻薬問題はもちろん、若者が関係するそれ以外の問題の解決にも取り組んでいる。ウィチャイさんもこのプロジェクトに参加しているそうだ。「子供を守るプロジェクト」の中でも「子ども議会」というものは、法律でも保障されている活動である。21人程度で運営されている、タイの全国的な活動である。警察官もその議会に参加している。活動の計画も実行も自分たちで行っているそうだ。

今回警察官の方々からタイの麻薬問題についてお話を伺うことが出来たが、決してこの問題は他人事ではないと実感した。これは日本でも十分に起こりうる問題、もうすでに起こっているかもしれない問題だからだ。また、「子供を守るプロジェクト」の「子ども議会」などの、子供やその問題の対象である青少年が主体となり、実際に話し合いやアクションを起こすことで、問題意識を芽生えさせたり、「どうすれば解決するのか」を自分たちで考えさせたりすることが日本でも必要になることだと感じた。



VI. 感想

□藤森菜摘

私は小学生の頃タイのバンコクに住んでいたこともあり、都市部以外のタイの現状に興味が有り、今回 SGH タイ研修に参加しようと決意した。短期間であったが、今までで一番充実し、たくさんのこと学べた濃い時間を過ごすことができた。

タイに来る前に、事前学習で人身売買について学んだが、現地に来て更に深く学ぶことができた。人身売買には様々なタイプがあることも知った。そして、実際に人身売買の被害にあった女性の話を聞いて大きな衝撃を受けた。彼女は 20 年間も同じ場所で暮らしていたという。彼女の話の中で最も印象深く残っていることは、人身売買の被害に合わせたブローカーのことを、自分に職を与えてくれた恩人だと思ってしまう人がいるということだ。彼女たちは警察に保護されてもブローカーを恩人だと思っているので話をしてくれないという。そのため、ブローカーは捕まりにくいという現状もある。また、普通にオフィスで働く人よりも物乞いをしている方がお金を多く得られるという事実もある。お互い利益が得られるので、この問題を解決するのは本当に難しいことだと思った。そして、日本がタイの人身売買受け入れに大きく関係している国だということも知り、他人事でないことを改めて感じることができた。現在でも人身売買の被害は絶えず続いているという事実に、早くこの問題の解決法を見つけなくてはならないと思った。

そして、パヤオセンターで暮らしている施設の子どもたちは皆気配りが上手な子たちばかりだった。最初、私の中でどのように子どもたちと接すればいいのだろう、という不安もあった。しかし、子どもたちはとても明るく元気な子たちだった。皆積極的に私たちに話しかけてくれたり、タイの伝統的な遊びなどを教えてくれた。お互い言葉が通じなくても、コミュニケーションを取ることができたと思った。そして、彼らは自分たちでセンターの掃除や洗濯、食事などを行っていた。高学年の子が低学年の子に生活指導をしている姿を見て、皆自立していると感じた。私は親にどれだけ頼って生活しているのだろうと反省する部分もあった。一方で、センターの子どもたちは親に甘えたり、頼ったりしたい時期だったので、少し複雑な気持ちになる時もあった。また、子どもたちと接する中で、この子たちがセンターに保護されていなかったら人身売買の被害にあうかもしれないかったと考える時があった。そのことを考えると人身売買をしている人たちが本当に許せない気持ちになった。大学生になってもパヤオセンターに再度訪れたいと思っている。

私は今回の研修に参加できて本当に良かったと思っている。参加していなければ人身売買の深い問題や現状をずっと知らないまま過ごすことになっていた。帰国した私たちに出来ることは一人でも多くの人にこの実態を知ってもらうために伝えることである。

□山本響

短い期間だったけれど、僕の中では一生忘れることのない経験になった。この研修を通して今まで知らなかったことをたくさん知れた。自分の無知さを感じた。YMCA パヤオセンターの子供達はみんな元気で本当にいい子ばかりだった。うまくコミュニケーションを取ることは出来なかつたけど言いたいことが通じた時は嬉しかったし、言語の壁はどうにでもなると思った。僕がこの研修に参加していなから、自分が高校生の時に人身売買についてこんなにも真剣に考えることはなかつたと思う。人身売買の受け入れ国である日本に住んでいながら、人身売買と聞いても離れていて、日本にはほとんど関係ないものだと思っていた。他人事のように感じていたが、日本でも身近に起こつてゐる問題だと知つた。深刻なこの問題をすぐに解決することはできないけれど、まずは少しでも多くの人にこの事実を知らせる必要があると思った。



リターナーさんの話は本当に貴重な話だった。もっと多くの人に日本でこのことが行われていたことを知つてもらいたい。21年間もの間、日本にいて毎日同じ場所一箇所で同じことをさせられていたが本当に恐ろしくて衝撃を受けた。実際に経験した人から話を聞いた後でも信じられなくなるほど衝撃的だった。

タイの問題の1つである麻薬と人身売買について個人的なイメージだが日本はタイに比べて無関心な感じがした。タイで行われているような、カリキュラムの中に麻薬問題を知つてもらうような授業を取り入れたり、18歳未満の青年たちに地域の問題を解決するための子供議会をやっているように、もっと日本でも知る機会が必要だと思った。



僕は他の国の文化を知ることが好きなのでホームステイ、センターでの子供達との文化交流、食事などを通してタイの文化に触れて楽しかつた。

これらのことを行つてない現状を知らない人たちに他人事じゃなくて自分ごとにできるように伝えられるように努力しようと思う。短い期間だったけれど自分を成長させる本当に充実した時間だつた。

□榎本胡桃

私は、アジアについて興味があり、この SGH タイ研修に参加した。この研修に参加して、普段日本で生活していたら学べないことをたくさん学んだ。

タイで起きている人身売買問題について知った時、驚くことばかりだった。人身売買はどこまでが人身売買に含まれるかなど全然理解していなかったので、センターで教えていただいて理解を深めることができた。お金が稼げるからと、騙されて人身売買の被害にあってしまうケースもあり、とても危険だと感じた。なかでも衝撃だったのは、リターナーさんのお話を実際に聞いたことだ。実際にあった出来事を聞くことで、余計に現実味が増した。普段、このようなお話はなかなか聞くことができないと思うので、貴重な時間となった。実際、日本は人身売買の受け入れ国であることを行くまで知らなかったので、自分の国で起こっていることなのに全然理解していないと感じた。また、普段自分たちが暮らしている日本でこのようなことが起きていると思うと、とても恐ろしかった。日本では、人身売買問題について教わる機会があまりない。人身売買についてもっと考える機会必要であると感じた。

村でのホームステイは、日本との違いをたくさん発見することができた。台所や、トイレなど、日本と全然違ったもので、とても新鮮だった。村での生活で不便なことは何もなく、とても充実したホームステイだった。また、ホームステイ先の家族はとても優しく、言葉は通じないが、コミュニケーションをとることができた。実際にタイの村での生活を間近で見ることができ、良い体験となった。

パヤオセンターの子供たちとの交流は、とても充実した時間だった。パヤオセンターに行く前までは、ここに保護されている子達は、センターに入る理由がそれぞれあって、どのように接したら良いのかとても不安だった。しかし、実際に見て見たらすぐに不安は無くなった。センターの子供たちは、とても元気で、明るくて、私たちにたくさん話しかけてくれた。食事の時も、私たちの分を取ってくれたり、美味しい？と日本語で話しかけてくれたりもした。また、センターの子達は、食事の準備から後片付け、洗濯など、普段私たちが親にやってもらっていることまで全て自分たちで行なっていた。自分よりも遙かに年齢の低い子たちもしっかりとやっていて、自分は情けないと感じた。小さい子供から大きい子供まで、みんな一人一人が自立していた。そして、センターの子供たちはみんなで協力し合って暮らしていると強く感じた。

私たちは、今回この研修に行ったことで学んだことを、そのままにせず、多くの人に伝えていきたい。



□時崎愛悠

“知らなかつた”この言葉はどんな現実を与える、これからどう繋げていくかということを私に学ばせてくれた。それを含めてタイでの学びは大きく二つある。

一つ目は、人身売買の話だ。今回の研修で一番ともいえるこの内容は今まで経験したことがないくらい重く、そして悲しい現実だった。お話をくださった女性の方は当時の自分の家庭状況を最優先に考えたことで日本での労働を決意した。しかし、一か所の場所でしかも、地下室に閉じ込めさせられたそうだ。これは身体的にも精神的にも私たちには感じれない苦しみがあったと思う。

私がこの話を一通り聞いて感じたことは、学習というものがなかったために、私たちはいくつか気づけたと思うところがこの女性には気づけなかつたのだ。

この女性のほかにもたくさんのタイ人女性が同じところにいたという事実はこの時代の学習に対する関心が低かったのだと思った。

二つ目は、パヤオセンターについての紹介だ。センターは子供たちを人身売買から守るために場合の一環として生活の質を上げることを目的としている。子供たちは、子供議会からなり選挙で選ばれた人が先頭に立ち、そのほかの子もグループに所属し、その中で班長も決めるという学校のような集団生活を送ることで、たくさんの人のの中でもきちんと自分の仕事を見つけ、率先して行う行為を大切にしていると感じた。また、自ら進んでいいことをした子には職員からスタンプがもらえ、自分の欲しいものの数がたまると交換できるという仕組みは面白く、ものの大切さや頑張る喜びが学べると思った。

普段、子供たちは7時から8時までの1時間は自習時間とされていて上級生が教えてあげることもある。学年が混ざり合って生活しているからこそこのようなことができ、みんな自立していて、他人を思いやれる子たちだった。

タイ語が全く話せない私にもあきれることなく、私の持参したタイ語帳や日本語を使っていっぱいお話をてくれた。

この研修を通して、一番最初に述べたように「学ぶ」ということがどれだけ大切か考える事ができた。学ぶという行為を幼いころにできなかつたとしたら人生が真逆の方向へと変わる可能性が存在することに気づけ、更に現在この豊かな環境で生活し、毎日学校に通っていることが幸せだということも気づいた。

タイの社会問題を現地で、生の声を聴くことによって他人事であった出発前よりかなり自分事としてとらえれるようになった。ここで得てきた現実とこれからも向き合い自分なりの答えを見つけていきたい。

現地に行っていない慶祥生をはじめ、多くの方に私と同じような感情や事実の認識をしてもらいたい。その感情や事実を伝えていくのが、タイ研修から帰ってきた私たちの目的であり、使命だと思う。

□柳沼千夏

今回タイ研修に参加して、たくさんのものを得ることが出来た。去年の SGH タイ研修の発表も、高校 2 年生で行われる海外研修のタイコースの人たちの発表を聞いて「そうなんだ」と思っていたことでも、実際に自分で見て、聞いて、感じていると、またさらに学ぶことが多くあったと思う。

人身売買についての授業を受けたとき、「青少年の人身売買はなぜ行われてしまうのか」という理由の中に、親の離婚も含まれている、ということを聞いて、家族を支えるために行っている出稼ぎも親の離婚の原因につながっていることが分かった。人身売買も貧困も、すべてのものは悪循環になっているのだと思った。また、リターニーさんは勇気を出して自分の置かれている状況を日本の男性に話し、その男性や YMCA の方々の協力を受け、タイに帰ってくることが出来た。だが、日本を含めた受け入れ国ではまだ多くの人が犠牲になっている。そのような人を救うために、教育や連携が絶対に必要になると実感した。また、自分たちは恵まれた学習環境にいるということを改めて認識し、学びを無駄なものにしてはいけないと心に決めた。

麻薬の講義が行われた際、「子供を守るプロジェクト」の子供議会という、子供や問題の対象である青少年たちが主体となり、実際に話し合いを行い、自分たちで企画し、アクションを起こす活動が行われているということを初めて知った。この活動は、自分たちに関わる問題が起こっているということを認識させることができる。また、自分たちで解決方法を考えることにより、画期的な予防方法となっているのではないだろうか。このシステムは、日本も活用させていくべきであると考える。

麻薬を使用し、身柄を拘束された後、リハビリ施設に行くという選択肢もあり、日本との違いがあるということが分かったが、再発率はおよそ 50% ということを聞いて、簡単に抜け出すことのできない麻薬の恐ろしさを痛感した。

この研修では、パヤオセンターの人たちとも交流することが出来た。パヤオセンターの子供たちはとてもしっかりしているように思えた。日本の小学生はおろか、私たちよりもしっかりしていた。タイと日本の文化交流では、パヤオセンターの子供たちが準備してくれたダンスやタイの遊びを楽しんだ。私達も、茶道のお点前やせんべい喰い競争などを用意してパヤオセンターの子供たちと交流した。とても楽しんでくれていたが、抹茶を飲んだ時にとても苦そうな顔をしていたのが印象的だった。

リターニーさんや警察の方、パヤオセンター先生方、子供たち、ホームステイなど、多くの体験をできて良かった。このタイ研修に参加しなければ、一生知ることのなかつた世界だと思う。また、今回の研修を通して、日本は人身売買の問題に無関心であるということが分かった。人身売買が起こってしまっている現状を、受け入れ国になってしまっている現状を、日本の人々にこそ伝えるべきである。これからは、この研修で学んだことをたくさん的人に伝えるために、積極的に活動していきたいと思う。

□渡辺眞由

私は日本で生活していた時は人身売買という言葉を聞くと、お金を稼ぐ目的で自分の意志で働きに出るものだという勝手なイメージで捉えてしまっていた。今回の研修で人身売買には強制労働、強制売春、物乞いなど様々なケースがあり、また、自分の意志とは違う形で様々な手口によって騙されて、人身売買に巻き込まれるケースが多く存在するということを聞いて、衝撃を受け、事前学習などでの人身売買に対しての自分の理解が甘かったと反省した。

さらに衝撃を受けたのは、日本が人身売買の受け入れ国として人身売買の問題に大きく関与していることである。実際にタイからシンガポール、マレーシアを経由して、日本で21年間もの間人身売買の被害にあわれていた女性のお話を聞かせていただくという貴重な体験ができた。その女性が語ってくださった日本での出来事は信じられないほど残酷で、人間としての扱いではないようなことであった。そのような残酷な行動を日本人が実際に行っていて、今現在もそのようなことが日本で続いているということを考えると、恐ろしいと感じた。

そして、日本は人身売買の受け入れ国であり、多くの被害を出しているにも関わらず、多くの日本人がこのような現状を知らないということが問題だと感じた。タイでは学校の授業や日本のニュースなどによって人身売買についての知識をつける機会がある。そのような機会が日本にも設けることで、日本人も日本が人身売買に関与している事実を知ることがまずは必要だと感じた。そしてそうすることが人身売買の問題解決の第一歩であるのではないかと考える。

私たちが今回の研修で一番長く滞在した YMCA パヤオセンターで強く感じたのは、一人一人の子どもがすごく自立しているということであった。センターの子どもは食事の準備や片付け、掃除やお皿洗いなどほぼすべてのことを自分でこなすことが出来ていた。様々な事情でセンターに入って、両親に甘えることなく生活しなければならない環境で生活するため、一人で何でもこなすことが彼らにとって当たり前の生活であるのだと感じた。そして今私が両親のもとで何不自由なく生活出来ていることを当たり前だと思ってはいけないし、感謝するべき素晴らしいことなのだと感じた。また、子どもの自立のもう一つの理由として、センターが行っている自立力向上のためのトレーニングがあると感じた。センターの子どもは掃除、洗濯、お皿洗いなどの家事のほかにも様々なことを行っていた。日本の学校教育にもそのような自立力の向上を諂るためのトレーニングのようなものが日本人の環境に適応した形であれば良いのではないかとも考えた。

センターの子どもと遊んだり、お互いの文化紹介をしたりする時間を心の底から楽しい時間を過ごすことが出来た。タイ語がほとんど話せない私たちを笑顔で迎えてくれ、一緒に楽しい時間を共有できた。タイでした経験を忘れずに日本でたくさん



経験を積んで、タイ語も今よりは上達させて、またセンターの子どもたちに会いに行きたい。

タイの高校に訪問した際は、高校の生徒とお互いに出し物をしたり、写真を撮ったりして文化交流をした。日本（立命館慶祥）の生徒は自分から積極的にコミュニケーションをとることが出来ない人が多いので、彼らの積極的な対応に驚いた。しかし、彼らが明るく積極的に話しかけてくれたおかげで、短い時間だったけれど楽しい時間を過ごすことができた。私自身、留学生が自分のクラスにきたとき、なかなか自分から話すことが出来ていなかったと反省した。今後、海外から留学生が訪問してきた際には留学生に対して積極的な対応に改めたい。

ほかにもタイの警察官の人によるタイの麻薬犯罪についての話や高校の先生によるタイの教育などについてのお話やパヤオセンターの支援によって持続可能な農業をすることに成功した農家の方の話など、4泊5日の短い間でしたが、なかなか出来ない経験を短い期間にたくさん与えてくださいり、とても内容の濃い時間を過ごすことが出来た。この経験に感謝して、学んだことを自分の将来や誰かのために役立てていきたい。



□野崎華菜

今回、タイ研修に参加するまでは事前学習や先生から人身売買の問題やパヤオセンターについての学習をしていた。実際に被害にあった方の話や現地の警察の方、パヤオセンターの子供たちと交流することで学習していたことと繋がり、学びが深まったものもあったが、想像していたことや学習していたことと全く違ったこともあった。実際の場所に行ってみないとわからないことは多いのだと改めて実感した。

パヤオセンターでの取り組みはたくさんあり、人身売買の防止活動、被害にあった方への支援だけでなく、持続可能な農業への支援も行っており、とても驚いた。パヤオセンターの子供たちはいい子たちばかりだったが、普通5、6歳の子供はもっと我儘を言ったりするものだと思っていた。本当の母に甘えたい時期でもあるのに、あまりにもいい子すぎるのも不思議なことだと先生から言われ、確かにそうだな、とも思った。このような子供たちをどう無くしていくかというのは世界全体で考えていくべき問題であると思った。

人身売買については今回お話を聞くまでは定義も分かっておらず、どんなケースが人身売買にあたるのかも知らなかった。また、人身売買の被害となりうる原因も1つや2つではなく様々な観点からブローカーは狙っているのだと知り、恐ろしく感じた。私は様々な原因の中でも1番に対策しなければいけないと思うのは「教育」だと思う。しっかりと教育を受けることができれば、ブローカーに騙されることも減り、大人になってもブローカーになろうとはせず、真っ当な職業に就こうと思えるだろう。しかし、今の親となる人々が教育の大切さを知らず、農業に従事させてしまい子供が被害にあってしまうというケースもあるとおっしゃっていた。そして持続可能な農業を行っている家庭へのインタビューでも、ホームステイ先のお話でも皆借金があったとしても豪華な暮らしでなくとも幸せだとおっしゃっていた。私の考える幸せはお金があつて裕福な暮らしだと勝手に決めつけていたが、お金がなくとも幸せだと聞き、幸せとは何だろうということも考えさせられた。だが、お金がなくとも幸せだと本人たちが思っていても、人身売買への被害を抑えるためにはまず騙されない事、お金があることが第一だと考えるため、教育の大切さをどう説得していくかも世界規模で考えていかなければならないことだと思う。

リターニーさんの話は衝撃的な話が多く、日本が人身売買の受け入れ国だということも今回初めて知った。表向きではいい顔をしていても裏では人身売買の取引をしている日本には嫌悪感を抱いた。日本がそのような事業を行ってしまっていることもしっかり取り締まらなければならないと思う。

麻薬の話では現地の警察官の方からお話しを聞くという貴重な体験ができ、とても勉強になった。麻薬問題についても貧困とは切り離すことは出来ず、また貧困をどう解決するかはタイだけで対処するのではなく世界の人々がこういった問題に興味を持ち、一緒に考えていくことが大切だと改めて感じた。

今回の研修では様々な問題の実態を知ることができ、次は得た知識をどのように日本の人々に伝えていくかを考えていきたいと思う。